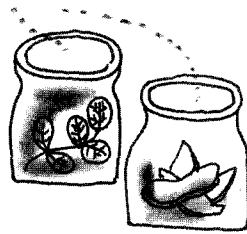


## 保育の現場から

# 見えないものを感じ合おう

佐藤 寛子



子どもたちは、遊びの中でその時どきの思いを伝え  
てくることが多い。私たち保育者は、子どもたちの思

いを受け止め、受け止めたことを何らかの形で返して  
いこうとする。そうしたやりとりを重ねながら、互い  
に理解し合い、かわりを深めていくことが、保育で  
あるのだと思う。けれども、子どもたちの思いとその  
受け止めの間に、時には、ずれが生じることもある。

A子の始めた遊びを振り返りながら、子どもの思い  
と保育者のかかわりについて考えてみたいと思う。

## 香りのお届けもの

香りのお土産を持って、A子が登園してきたのは、  
年長組になってひと月程たった五月のある日のこと  
だった。登園するとすぐに「先生に、あげようと思っ  
て……」と、A子はかばんの中から小ぶりの瓶を二つ  
取り出した。

「こっちは、お水の中に、ミントの葉っぱが入ってる  
の。こっちは、レモンの皮」

ミントの瓶のふたを開けると、すっきりした香りが鼻の奥からのどまで抜けた。

「うわあ、スツキリするねえ」と、私が言うと、

「お庭で育ったミントなの。お母さんと、摘んだんだよ」と、A子は大急ぎで説明する。

私は、ミントの香りを、まだのどのあたりに残したまま、急いでレモンの瓶のふたを開けた。

「ね、こっちはレモンでしょ！」

レモンの皮入りなので、レモンの香りは当然なのだが、私の顔をのぞき込みながら、A子は満足そうに言った。レモンの瓶から漂ってきたのは、ちよっぴり甘酸っぱい懐かしい香りだった。

A子と私のやりとりを見て、登園してきた子どもたちが、興味をもって寄ってきた。A子の二つの瓶が、順番にいろいろな人の手に渡り、そこそこで、

「いいにおいだねえ〜」という声が飛び交った。A子は、みんなの様子を見ながら、

「でもね、このままにしておく、だんだん臭くなっちゃうの。お水を毎日替えるようにしてね」と私に言うと、大急ぎで身支度をし園庭に飛び出していった。

### 見えないものを売る

それからひと月ほどたち、ミントとレモンの香りの瓶詰めは、水を替えた(時どき忘れたので、毎日ではなかったのだが……)ものの、いよいよドロドロしてきた。A子もあの後、ひと言も香りの瓶については話してることがなかったので、そろそろ処分してもいいかな? と思っていたときだった。

「また持ってきたよ!」と、A子は、前のものよりひとまわり大きい瓶を私に見せた。今回はレモンの香りの一種類だった。

「これで、香りやさんをやろうと思うんだ!」と、A子は張り切っている。

「いいねえ。すてきだな」と答え、一緒に準備を進め

たものの、「香りやさん？　どんなふうに関りやを売  
のだろうか？」私はA子のアイデアにドキドキした。

お店は、園庭に面した保育室入り口のたたきに開店  
した。「かおりやさん」と小さく書かれた看板はとて  
も地味だったので、果たして集客できるのかと私は不  
安に思ったが、どこでかぎつけてくるのだろうか？　や  
はり香りの威力だろうか？　年中・年少組からお客  
さんが訪れた。

「ならんでくださーい」と、集まったお客さんに声を  
かけながら、A子は瓶のふたを開け、お客さんの顔に  
瓶を近づける。

「うわあーいいにおい！」と、歓声上がる。お客さ  
んの表情を確認すると、

「ありがとうございます。次の人どうぞ！」とA  
子。忙しそうな様子を見て、仲良しのB子も手伝い始  
めた。

「ならんでくださーい」「はい、次の人！」

二人でリズムミカルにお店を切り盛りしていく様子は、  
忙しそうだが実に楽しそうだった。

ところが、しばらくするとお客さんから注文が出始  
めた。瓶の中身を分けてほしいというのだ。

「あのね、これは売り物ではありません。においを嗅  
いでください」

A子は「小さい組だから、しょうがないなあ」とい  
う感じで説明していたが、「お店やさんなのに、何に  
もないのは変だ」と、注文がいよいよ文句に変わり始  
めると困った様子で私に助けを求めてきた。

### 香りやさんの大盛況

「困ったね。でも、お店やさんに来たら、何かほしい  
なって思うのもしようがないかな……。どうしたらいい  
だろう？」

A子と一緒に私も悩んでいると、B子が「瓶にお水  
を入れて多くして、少しずつ売るのはどうかな？」と

言ってきた。仲良しのB子の提案をA子が受け入れ、やってみようとしている様子を見て、ひとまずホツとした。二人の作った香りを小分けにするために、私は材料室に、フィルムケースを取りに行った。

香りが目に見え手に取れるようになったことで、翌日からの香りやさんは大盛況だった。お店にかかわるメンバーも増え、もつと香りの種類を増やしたいと、子どもたちのイメージも広がってきた。

私も園庭を子どもたちと歩き、香りのする植物を探した。ミカンの葉、バラの花びら、シソの実、ミントの葉……。ドクダミの香りに鼻が曲がりそうになったり、クチナシの花を家から持ってきてくれる人があったりと、子どもたちと一緒に香りを嗅ぐということをごんごんに意識し、身近に感じたことはなかったかもしれない。A子のレモンと幼稚園のミカンの香りは、水に入れて薄めても香りが強かったためか、不動の人氣だった。

雨の日の香りやさんは廊下で開店した。室内では、外のように水を大胆には使えない。レモンやミカンの香りの液を脱脂綿に二、三滴垂らし、それをフィルムケースに入れることを提案したのは私だった。香りの種類がわかるように、フィルムケースにラベルを付けるのはどうかと話すと、子どもたちは「ミカン」「レモン」とせつせと書き、手分けをして、フィルムケースに貼った。中には「ダブル」と書かれたラベルがあり、レモンとミカンの香りのミックスであると、子どもたちからの説明があった。

### 相談やさんの開店

ところが、香りやさんに活気が出てくれればくるほどA子は、そこから遠ざかるように違う遊びをしようとした。友達から誘われても、私が声をかけても、「みんながやってくれるから、だいじょうぶだよ」と言ってきた。

そのころA子が始めたもう一つの遊びに、相談やさんというのがある。A子は年長組になってから、二度ほどおもしろしをしたことがあった。遊びに夢中になって、トイレに駆け込んだものの、間に合わなかったのだ。私はそのことをあまり気に留めていなかった。それよりもむしろ、友達とのかかわりを楽しみながら、夢中になって遊び込んでいるA子の様子をうれしく思っていた。

ところが、A子の母親は、年長組になったのに、おもしろしをしているわが子のことを心配し、私に相談してきた。母親や先生が自分のことについてどんな話をするのだろうかと不安な様子のA子に気づき、私は、A子も含めた三人で、ゆっくり話すことを提案した。

A子の園での様子をていねいに話したことで、母親はいくらかホッとされたようだった。A子にも、何か話したいことがあるかと尋ねたところ、

「いろいろあって先生に話したいなあと思って思っても、

先生はいつもみんなと遊んでて忙しいでしょ。いつ話そうかなって思う」と、ほそつと言ってきた。A子の告白にドキッとしながら、

「みんなが、もつと気軽に、いつでも相談しに来られるようにしないといけないね」と私は話した。A子は私の言葉を聞き少し考えてから、突然「そうだ！先生は相談やさんになればいいんだよ」と言ってきた。

こうして始まった相談やさんは、当初私の担当だった。ところが『そうだんやさん、なんでもそうだんのります』というちらしに、A子は私の名前と自分の名前を書き込み、手伝つてあげると言ってきたのだ。

相談やさんで受けた相談は、具体的な遊びの方法から友達関係の悩みまで、件数は少なかつたものの、内容は多岐にわたっていた。A子はその一つひとつについていねいに応じ、相談者や内容に合わせて、相談場所を廊下の隅や保健室にするなど細やかに配慮し、私よりも熱心に働いた。

## 見えないものを感じ合おう

相談やさんでのA子の姿を見て、私ははっとした。

相談やさんと香りやさん、どちらも、お店やさんなのだが、売り物は目に見えない。心地よい香りをお店の人とお客さんで共有する香りやさん。相談者の悩みを聴き、受け止めながら、その思いに共感する相談やさん。つまり、どちらも、目に見えない、形にならないものを、感じるのが遊びのテーマである。

香りやさんでの私のかかわりは、「香り」という目に見えないものを、目に見えるようにわかりやすくする（目に見えることが、わかりやすいとは限らないのだが）ことに偏っていたような気がする。フィルムケースにラベルを貼り、香りを小分けにすることで、香りやさんは、いろいろな子どもたちに広がり、かわりが生まれていった。園庭の環境にも気持ち向けをきっかけにもなった。

けれど、A子の思いと少しずっかけ離れていったのは確かだ。香りを瓶に閉じ込めて、A子がわざわざ園に持ってきた理由は、見えないものを感じてほしい、一緒に感じ合おうというメッセージだったのではないだろうか。

保育の中には、見えないけれど、見えないゆえに大切なことがいっぱいある。見えないものをわかりやすくすることで、豊かになっていくことがある一方で、見えないまま、しかし、確かに存在することを、共に感じ合っていくことで、かわりが深まっていくことも多くある。

子どもたちは、周囲の期待を受けながら、大きくなることへの希望をもち、複雑に、そして豊かに育っている。子どもたちのメッセージを細やかに受け止め、感じるができるような保育者でありたいと思う。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）